

クラーク博士の教え子で札幌農学校第1期生大島正健の著書『クラーク先生とその弟子たち』に、別れの日の様子を次のように書いています。(原文のまま記載します)

《馬上の訓言

明治10年4月16日、日本政府との契約期限が満ちたクラーク先生は、再びマサチューセッツ州立農学校々長の職に復帰すべく、うしろ髪を引かるる思いで札幌を辞し、室蘭経由で復帰の途につかれることになった。その朝名残りを惜しむ職員生徒一同は、先生の官舎であった創成川のほとりの元開拓使本陣前に勢揃いをして記念の写真を撮り、思い思いに肥馬に跨り、恩師の跡を追い、千歳街道をどこまでも追って行った。札幌の南6里島松駅に達するや、先生は馬をとめて駅通中山久蔵氏の家に入って休憩し、先生をかこんで別れがたなの物語にふけている教え子達一人一人その顔をのぞき込んで、「どうか一枚の端書でよいから時折消息を頼む。常に祈ることを忘れないように。愈御別れじゃ、元気に暮らせよ。」と言われて生徒一人々々握手を交わすなりヒラリと馬背に跨り、

“Boys, be ambitious!”

と叫ぶなり長鞭を馬腹にあて、雪泥を蹴って疎林のかなたへ姿をかき消された。…》

この情景を画家安田裕三氏(星槎道都大学美術学部特任教授)に依頼し、このほど別れを告げる「馬上のクラーク博士」の姿を油彩画で描き上げていただきました。別れの場面を描いた資料はいくつかありますが、当会は梁川剛一氏が描いた青銅のレリーフ『クラーク先生馬上の訓言』を参考にして、別れを惜しむクラーク博士の様子をイメージしました。

この絵を会員及び市民の皆様に見て頂くため、3月には北広島市役所5階市民ギャラリーで掲示すると共に、4月16日の恒例の別れの日記念行事としてエルフィンパークにて活動パネル展で紹介する予定です。

当会は、別れの地島松沢に「馬上のクラーク博士像」を建立したいとの思いで設立し、早5年を経過しました。この思いを実現するため、建立場所は国指定史跡旧島松駅通所の近隣が最も相応しいと考え、中山家に提供をお願いしております。

馬上像の詳細な仕様はこれから決定して行きますが、この度制作した絵画のクラーク博士のポーズと馬の姿勢を基本とし、積雪を考慮した2m程度の台座の上に魅力的な雄姿を醸し出すこととなるでしょう。

(注:絵画の背景にある駅通所の位置は、建立予定の場所を示すものではありません)



クラーク先生馬上の訓言 梁川剛一作(北大サークル会館)



「島松での離別」田中忠敏作(道庁赤レンガ博物館所蔵)



「さっぽろとクラーク博士」松原晴哉作紙芝居



恭賀新年

令和4年 元旦

(有)うえはら生花店

代表取締役 上原 康二

061-1124

北広島市稲穂町西1-1-3

電話 011-372-2607



新年のお慶びを 申し上げます

令和4年 元旦

藤川葬儀社

代表 藤川 清志

061-1121

北広島市中央1-4-2

電話 011-372-3644



本年もよろしく お願いいたします

令和4年 元旦

札幌北広島クラッセホテル

061-1101

北広島市中の沢316-3

電話 011-373-3800